

障害者の接方について

鈴木 誠悟

ぼくは、トウレット症候群という勝手に体  
が動いたソ、声が出てしまふ満気がある  
元の声をまねされたり、笑われたりしている  
のびとともいやです。だから、障害のある  
人の気持ちはよく分かりませぬ。障害は、少し  
たくとも治せない。それを知ってほしいと  
おもはぐは、障害のことを知らないから仕方  
ないとも聞か流れていきます。

おかげ、おもしろ半分、やうにいるとしても  
障害のある人は、たまたま、とともいやな  
ことでは、障害のことを知って、いって笑うのは  
さらにいけません。

もしも、障害のある人が身近にいれば、思  
いやりを持つ、言葉をかけたり、良いところを  
見つけてあげるのが正しい行いだと思ひます。  
また、障害のことを相手に伝え、障害を理解  
してもらふことも、障害のある人の努力も  
必要だと思ひます。障害のことをお互い分か

り合うことひ、相手も気にならなくたまるし障  
害のある人本人も、気持ちか軽くたまると思  
います。

ぼくは、障害者のなやみか少しでも減るよ  
うに、トウレット症候群の研究者になりたい  
です。なせなら、トウレット症候群のぼくか  
たやみもよく分がると思おうからです。つらく  
となやむ人一人でも減らせるためにこうけ  
んしたいです。

それからカカウソヒラトといつも相談のる

てくれる人もあります。他にも障害者のなやみ  
を軽くする人はたくさんいるので、ぼくもそ  
の人のようになりたいです。

トウレット症候群の人は思いやりがあまりま  
す。ダウン症という病気の人には笑顔がきれい  
です。障害の有無も関係なく、ともに楽しく  
過ごせるようになったらいいなと思います。